

冬のチャレンジキャンプ

1 ねらい

国立立山青少年自然の家周辺の冬の自然に親しむとともに、その中で思い切り雪上活動に取り組み、たくましい心身を培う。

2 期日

令和2年2月22日（土）～24日（月・祝） 【2泊3日】

（ボランティア研修 令和2年2月8日（土）～9日（日） 【1泊2日】）

3 対象

小学校3年生・4年生

4 参加人数／募集人数／応募者数

27名／24名／29名

5 スタッフ・ボランティア

国立立山青少年自然の家職員 4名

法人ボランティア 11名

6 ボランティア研修

国立立山青少年自然の家職員法人ボランティア11名



	午前	午後	夜
2月8日(土) 1日目	○打合せ ○フィールド下見	○テント設営（テント泊準備） ○雪活動体験 ○夜ごはんづくり（ハンバーグ入りアルファ米カレー）	○キャンプファイヤー ○ナイトハイク ※雪上テント泊
2月9日(日) 2日目	○朝ごはんづくり（カートンドッグ） ○テント片付け ○来拝山かんじき登山	○山中にて昼食（カップラーメン・おにぎり） ○ふりかえり ○解散	

7 後援

富山・石川・新潟各県教育委員会、北日本新聞社、Net3

8 日程

	午前	午後	夜
2月22日 (土) 1日目	○はじめのつどい ○グループタイム ○昼食（不動棟2階、やきそば）	○テント設営（テント泊準備） ○かんじき練習 ○夜ごはんづくり（ハンバーグ入りアルファ米カレー）	○ナイトハイク ○ふりかえり ※雪上テント泊
2月23日 (日) 2日目	○朝ごはんづくり（カートンドッグ） ○テント片付け ○大日の森散策	○山中にて昼食（カップラーメン・おにぎり） ○森の中の雪遊び ○夕食（食堂）	○キャンプファイヤー ○ふりかえり ※ 不動棟3階泊
2月24日 (月・祝) 3日目	○朝食（食堂） ○雪遊び	○昼食（食堂） ○グループタイム ○おわりのつどい	

9 参加者からの感想

- テント張りやバーナーでご飯づくり、山登りにチャレンジしました。いろんなことにチャレンジするつもりで参加したので実行できて良かったです。

- 最初は友達ができるか心配しましたが、最初の班での自己紹介の時にもう仲良くなりました。
- 来拝山登山はできなかったけど、おにぎりとおカップラーメンを森の中で食べられたのがとても良かったです。
- 山登りは、寒くてつかれて大変だったけれど、おにぎりとおラーメンを食べてすぐに元気になりました。
- 1日目のナイトハイクでは、真っ暗な中、ろうそくの火だけで歩くのは怖かったけど、どきどきして楽しかったです。2日目のキャンプファイヤーの火がとてもきれいでした。
- ボランティアのリーダーを雪に埋めるがとても楽しかったです。また、埋めたいです。
- 3日目の雪遊びの時間にクロスカントリースキーを初めてやりました。みんなについて行くのがやっとなかったけど、天気良くて、だれも通ってないところを歩くのがとても気持ち良かったです。
- 雪の上でテント泊をすることはできなかったけれど、テントを立てたりエアマットの空気を入れたり大変だったけど楽しかったです。カートンドッグのパンが焦げて大変でした。

10 成果

- 開始前日に雨が降り、風も強かったので雪上テント泊を断念し、不動棟2階でのテント泊体験に切り替えた。「チャレンジキャンプ」の名にふさわしい活動を準備したが、変更を余儀なくされた。しかし、最低限の体験をさせることができたので、子供たちには有意義であった。
- 天候の関係で日程に余裕ができ、遊びの時間を多くとることができた。子供たちは何よりその時間を喜んでいました。
- 2日目の活動を登山のみに絞ったことは、有効だった。本事業の目的である「チャレンジ」を明確にし、精神的、具体的部分で前日からその準備を行うことができた。
- キャンセルを見込んで、24人定員のところ応募者29名全員を採用し、結果2名キャンセルの27名での開催となったが特に問題はなかった。テントが5人テントなのでボランティアリーダーを除いて各班男女各4人は受け入れ可能だということが分かった。

11 今後の課題

- 定員を24名で募集したが、28名または32名で応募可能であると感じた。
- 昨年度よりも応募者数が少なかった。ある程度の過酷さが必要であるが、楽しい活動もアピールする必要がある。
- 来年度は2月に連休がないため、1泊2日にせざるをえない。その際、来拝山登山を大日の森散策に変更する必要がある。
- 今回、想定外の雪不足であった。そのため、無雪時の活動も予め考えた。実際は、雪が降り、その必要はなかったが、毎回、無雪時の活動を用意する必要がある。

